

桜街道



ヤマモモ植樹



トレッキング研修



本社移転

環境報告書

ENVIRONMENTAL REPORT

2009

エコー電子工業株式会社

INDEX



この報告書に関するご意見・お問い合わせは下記までお願いします。

エコ電子工業株式会社 みどりの委員会

〒812-0007

福岡県福岡市博多区東比恵3-1-2

TEL. 092-471-0848 FAX. 092-471-8621

この報告書は弊社のホームページからもご覧になれます。

<http://www.g-hopper.ne.jp>

ご挨拶	1
会社概要	2
事業内容	3
本社移転	4
CSR活動	5
グリーン商品	8
環境方針・環境マネジメントシステム	9
行動計画／目標・実績	10
廃棄パソコンの回収・解体	12
環境教育	14
社会貢献	15
環境会計	16
環境保全活動のあゆみ	18
活動スケジュール・第三者コメント	19
みどりの委員会	20
用語解説	21

産業革命以降、人口の急激な増加や化石燃料の大量消費、伐採による森林面積の減少等により、二酸化炭素等の温室効果ガス排出量が増加しています。その結果、過去100年間に地球の平均気温が約0.3～0.6度と急激に上昇し、世界中で異常気象による自然生態系や生活環境への影響が出ています。これが『地球温暖化』と呼ばれる現象です。

2005年2月に施行された『京都議定書』によって、日本は2012年までに温室効果ガスの排出量を1990年度比で6%削減するという目標を達成しなければならなくなりました。そのためには、依然増加傾向にある温室効果ガスの排出量を減らさなければなりません。なかでも大量の温室効果ガスを排出する企業の取り組みが重要となります。



当社では1996年に経営コンセプトとして『人とみどりとソリューション』を発表し、環境問題を経営課題のひとつととらえ、翌年のリサイクルセンター開設を契機に、環境保全への取り組みを積極的に推進して参りました。他社に先駆けて、99年には念願のISO14001を取得しました。

今ではITプロダクツの提供からアプリケーションの開発、情報・通信機器の設置、工事まで手がけるとともに、その後のメンテナンス、使用済み機器類の引き取り、そして、解体・分別・再利用を行って、『循環型ソリューションプロバイダー』を自負できるまでに守備範囲を広げてきました。特に、当社の環境保全活動の柱であるリサイクルセンターはマニフェスト制度の浸透により、収集された廃棄物のレアメタルの分別に注力し、究極の目標でありますゼロエミッションに向けて鋭意努力しております。

また、06年にはITのリユース部門を分離して、本格的にリユースを専門に行う(株)パクスを設立しました。これは使用済み機器の再利用、つまり、機器の寿命を延ばすことで、環境負荷の低減を行うビジネスにも新たに取り組みました。

一方、地道な活動ですが、お客様に納品するITシステムにペーパーレス化など省エネの仕組みを組み込んだり、社員の日ごろの行動にも環境保全を意識した目標を設定して、報告するなどの運動を推進しています。更に、九州の土地に適応した照葉樹を育て、個人が排出するCO2を23本/人の木で吸収しようと、自分たちの森作りに取り掛かるつもりです。まだまだ緒についたばかりですが、一人ひとりが地球に優しい行動をおこすことで、企業としての社会的責任の一端を果たしてゆこうと考えております。

エコ電子工業では02年に環境報告書の初版を発行し、版を重ねて7版をお届けすることができました。ITによるソリューションを本業にしながら、直接、間接的に組織的にやってきた環境活動を本書でまとめております。本報告書を通じて、当社の活動をご紹介できれば幸甚でございます。



荒井 隆一

代表取締役社長

～青い地球を守るために～

46億年前の地球は赤い火の惑星でした。その後、冷えた地球に植物が繁殖しました。光合成を盛んに行った植物たちは朽ちて倒れて化石化してゆきました。地中にCO2を閉じ込めて、酸素が地球を覆って、オゾンが太陽から生物を守る仕組みが出来上がったわけです。気が遠くなるような年月をかけて、生命が宿る青い地球が誕生しました。

人間は産業革命と同時に、地中に埋まっていた化石燃料を掘り出し燃焼させ、CO2を空中に放出することで、一瞬の200年の間に、一気に元の赤い地球に戻そうとしています。地球温暖化の始まりです。我々は青い地球を取り戻して、次の世代に引き継がなければなりません。そのためには化石燃料を使わないことはもとより、CO2をふたたび閉じ込める森を再生させることが大切だと考えます。

太古の時代から、家を作るために柱となる真っ直ぐな木樹が好んで植えられていました。戦後、住宅用木材の利用を目的に、杉やヒノキが大量に植樹され、九州の自然林の山々は人工的な杉・ヒノキにとって代わられてしまいました。その昔、九州には1200mを超える高山以外には杉やヒノキなどの針葉樹は植生していませんでした。それまでは、その風土や気候に最も適応した照葉樹の森が延々と続いていたはずですが。今や、売れなくなった杉やヒノキは手入れがされず、放置されてしまっています。無理やり合わない環境に植えられた樹木は人手をかけないと死んでしまいます。水を蓄える機能も衰え、風水害や火事にもろく、CO2吸収力も弱まってゆきます。

これからは人手がかからず、自然に生き続ける本来の強い森を作らなければなりません。その気候や風土に一番マッチした樹木を植樹して、森を生き返らせることも我々の努めだと思います。“みどり”という企業コンセプトをさらに押し進めて、本当の生きた森づくりに協力してゆければ幸いです。



当社は九州地区の富士通パートナーとして九州一円と東京を中心に、情報機器の販売とそれに伴うソフトウェアの開発、情報インフラ、通信機器の販売・工事、リサイクルを行うことで、お客様のソリューションをお手伝いしています。

1. 概要

設 立	1963年4月1日（昭和38年）
資 本 金	87,500,000 円
従業員数	196名（2009年4月1日現在）
事業内容	電子・情報通信機器の販売、ソフトウェアおよびコンピュータシステムの開発、 ならびにこれらに関する工事・保守・リサイクル・リユース
取扱商品	電子情報機器（パソコン、周辺機器、サプライ用品他） 情報通信機器（防災無線システム、無線機、交換機他） 応用機器（ダム管理システム他）、各種アプリケーションソフト

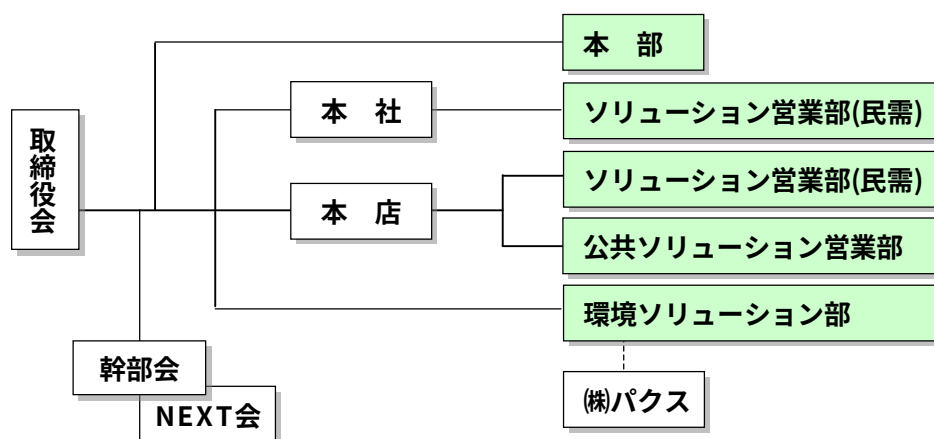
2. 沿革

1963年	4月	佐世保市松浦町77番地に会社設立
1965年	10月	福岡市に福岡営業所を開設
1980年	10月	佐世保市万徳町に本店ビル落成
1982年	5月	長崎市に長崎営業所を開設
1997年	7月	鳥栖市にリサイクルセンターを開設
1999年	3月	ISO14001認証取得
2003年	2月	A S P事業開始
2004年	6月	ISO9001認証取得（公共ソリューション部門）
2005年	8月	リサイクルセンターでバイオマス発電による電力導入
2006年	5月	リユース部門を独立させて（株）パクスを設立
2007年	1月	本社を佐世保から福岡に移転
2007年	1月	ISO27001認証取得
2007年	10月	企業格付“aa”取得（米国S&P社）
2009年	5月	本社を東比恵ビジネスセンターへ移転



東比恵ビジネスセンター

3. 組織





当社は昭和38年に神戸工業（現；富士通テン）の特約店として、無線機のメンテナンスと販売を目的とし、佐世保で設立しました。その後、神戸工業が富士通と合併したために、富士通製のコンピュータやパソコンを販売することになり、今では福岡を本社に、佐世保、長崎、北九州、鳥栖と九州北部に商圈を広げて、皆様のソリューションのお手伝いをさせて頂いております。その間、経営の効率化を図るために、保守部門を九州テン（580名）へ、大型システム部門を富士通九州システムズ（現在富士通100%出資子会社で約1,600名）へと会社を分離し、連携しながら、富士通の九州地区のトップディーラとして、今日まで成長して参りました。今ではお客様も製造業、流通業、運輸業、金融業、サービス業など多方面に広がり、地域で求められるコンテンツやサービスを提供しております。お客様からのご要望に的確にタイムリーにお応えすることのみならず、IT系の企業は割り切った付き合いをするという風潮に反して、地域で顔が見えるソリューション会社として、それぞれの立場の方々と情のこもったお付き合いをさせて頂き、信頼を獲得することで、未永く付き合っていくことをモットーとしております。

また『人とみどりとソリューション』のテーマのもとに、97年に九州で初となるパソコンなどの情報機器専門のリサイクルセンターを鳥栖に開設しました。06年には、使用済みパソコンのリユース会社の(株)パクス（15名）を設置し、情報機器の販売からその処分、分別、再利用まで、「循環型ソリューションプロバイダー」としての役割りを充実させ、パソコンの生涯をお任せいただけるまでに活動範囲を広げております。今後もこうしたITソリューションと環境貢献をテーマに事業を推進して参ります。

販売・開発・保守

地域に密着したソリューション企業として地場では最大とも言えるフィールド・システムエンジニア集団を擁し、お客様のアプリケーションの適用/開発のニーズにお応えしています。お客様固有のシステム開発やニーズに合ったパッケージの選択と適用、経験に基づいた的確な運用指導、また地場特有のスピード感あるサポートによる営業から開発、保守、処分まで一貫体制を整えています。

組み込みソフト開発

自動車/家電などには沢山のマイコンが組み込まれています。将来はこうしたマイコン(チップ)にソフトを組み込む技術者が不足するといわれています。当社ではこうした技術者を養成し、多様化する組み込み技術修得に努めています。特に九州は自動車アイランドとしてのポジションは高く、自動車関連のエンデベッド開発を強化します。

リサイクルビジネス

お客様が長年ご使用になられたパソコン等の情報機器類を責任を持って処理するリサイクル体制を整えています。運搬収集や中間処理の資格を取得し、徹底的な解体・分別による再資源化率の向上を行い、ゼロエミッションを実行しています。また、データ消去室の設置や専門技術資格者を配備しデータ漏洩対策も万全です。

リユースビジネス

一度は役割を終えた製品を再利用させ、リユース市場の更なる発展を担うため、株式会社パクスを設立しました。廃却されるお客様のデータ漏洩防止によるセキュリティ確保を行い、環境に優しいリユースを促進します。



本社移転

Moved to the head office



2009年5月に、本社を福岡市博多区の祇園から同区東比恵に引越しました。長年入居していたビルの老朽化やセキュリティが脆弱であったため、この不況下ではありましたが、検討を重ねに重ね、移転する運びとなりました。

移転先は、この3月に竣工したばかりの「東比恵ビジネスセンター」9階です。事務所の間取りは、これまでの190坪から205坪へと若干拡張しました。南西に背振山系の稜線が、東には三郡山系が広がり、福岡都市圏にしながら自然を感じることができるオフィスロケーションです。

アクセスは、福岡市営地下鉄東比恵駅とビルがエスカレーターで直結しており、福岡空港や博多駅までは3分、天神までは8分という好立地となっています。



さて、オフィス内部は、L字型の間取りをフル活用し、お客様をお迎えする受付接客ゾーン、デスクが並んでいる事務所ゾーン、会議室や書庫を配置した共用ゾーンの3つに区別しています。



玄関を入ると、受付カウンター越しに、奥行き37メートルの事務所全体を見渡すことができます。フリーアドレス方式を採用しましたので、席が決まっておらず、つまり人の動きや集まりをフレキシブルにコントロールすることができ、これまで以上に部分照明・消灯への対応が図れます。また、照明器具には、Hfユーライン蛍光灯を使っています。直管形蛍光灯に比べ管長は約半分と、省資源のランプです。定格寿

命は汎用品に比べ約2倍と長く、環境にやさしいばかりではなく、取替え作業の回数が減り、蛍光灯の交換費用や廃棄処分費用などのコスト削減にも役に立ちます。また、目にも優しく、机上面照度は700ルクスの明るさです。

当社のシステムの心臓である「サーバールーム」も一新しました。「サーバールーム」は事務所でセキュリティレベルが一番高いため、ICカードを利用した入退出管理を行っています。あと今までPCサーバが数十台乱立していましたが、今回ブレードサーバを導入しました。このブレードサーバは地球に優しい環境への負荷の少ない「グリーン製品」で、「削減効果」として消費電力効果が向上しCO2排出量が約20%削減できます。また実装スペースも2分の1に削減でき、ケーブル本数も約8分の1に削減できました。



本社移転を契機に、新しいアプローチによる環境活動を模索し、継続して取り組んでまいります。



CSRとは、Corporate Social Responsibilityの略で「企業の社会的責任」と訳されます。具体的に、コンプライアンス（法令遵守）、コーポレートガバナンス（企業統治）、ディスクロージャー（情報開示）など、一般に企業が社会に対して果たすべき「責任」になります。

当社のCSR活動は、経営コンセプトである『人とみどりとソリューション』に基づいているため、企業が果たさなければいけない「責任」というよりむしろ、企業が社会やお客様から得る「信頼」であると考えています。環境活動以外の主なCSR活動として、職場の安全・健康を推進する「虹の委員会」、社内におけるカイゼン活動を推進する「COM委員会」、ISO27001を推進する「セキュリティ委員会」があります。

1. 虹の委員会

虹の委員会は厚生労働省の労働安全衛生法に定められた“職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進すること”を目的として、09年4月に結成されました。

当社では、職場の安全管理（避難訓練）、社員の健康管理（健康診断、健康教育、長時間勤務管理、長期療養者支援、他）に重点的に取り組んでいます。また、リサイクルセンター、パクス、公共部門においても、それぞれに専任組織を設置し活動していきます。



09年度活動計画

主な活動内容	・09年 6月 安全のための定期職場巡回 ・09年 6月 定期健康診断 ・09年10月 インフルエンザ予防講習会 ・09年11月 避難訓練 ・10年12月 安全のための定期職場巡回 ・10年 2月 次年度計画策定
分科会	・毎月1回開催 ・長時間勤務者フォロー実施 ・長期療養者フォロー実施

2. 子育て支援

働く女性がその能力を十分に発揮し、男女ともに仕事と家庭を両立して働くことのできる環境をつくることは、少子化・高齢化が進む中でとても重要であると認識し、当社では子育て支援に取り組んでいます。育児休業者へは、休業前の育児休業規程の説明や代替要員確保、休業中も社内報送付やパソコン貸出、メール電話での定期連絡、復帰後の短時間勤務を行っています。

【育児休業取得実績】

2004年 2名
2006年 1名
2008年 3名

【活動内容】

2004年 育児介護休業規程施行(2005年改正)
2007年 「福岡県子育て応援宣言企業」登録
「子育て応援宣言企業1000社突破大会
パネルディスカッション」登壇
2008年 日本経済新聞に子育て支援取り組み掲載
2009年 長崎県「ながさき子育て支援企業表彰」受賞



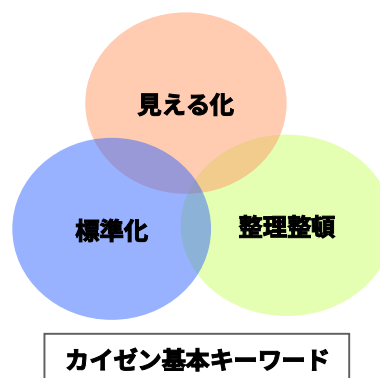
子育てしやすい職場環境づくりへの取り組みが長崎県知事より表彰されました。

3. COM委員会

COM委員会は社内におけるカイゼン活動を推進するために2006年に発足しました。COMとは、Customize Our Mindの略で『まずは私たちの意識からカスタマイズします』という意味です。

カイゼンの基本キーワードとして「問題点の見える化」「対策の標準化」「整理整頓」を掲げ活動をスタートしました。委員会メンバーは福岡、佐世保、鳥栖の各事業所から代表者が集まり、現在は7人で構成しており啓蒙活動および申告内容の精査・評価を行っています。

また昨年度からはカイゼンの目的をより明確にし、「生産性UP」「品質向上」「コスト削減」というキーワードのもと活動を行い、各パート社員を含む全社社員で取り組んでいます。日々の業務において現状に満足せず、常に「なぜ？」を繰り返すことにより、社員のカイゼン意識を向上させ、強い会社組織作りを目指します。



～Customize Our Mind～

“まずは、私達の意識からカスタマイズします”

COMとは「カイゼン」
それは、個々の意識を変えていくことです。
些細なことで構いません。
まずは、気付くことから始めます。

4. セキュリティ委員会

情報セキュリティ委員会は、世間で情報漏えいという言葉が出始めた2004年秋より活動を開始しました。当初は職場のモラル向上の一環としての活動でしたが情報産業における情報管理に対する要求の高まり、増加・拡大するセキュリティ事故への対策としての活動へ移行していきました。その結果として、2007年1月ISO27001の取得を行い、以降も維持・発展へむけて活動を継続しています。

昨今のセキュリティ事故の被害は拡大する一方で、1件の事故で数億円規模の被害に繋がることも珍しいことではありません。情報に携わる企業として自社のモラルをあげていく事は当然ですが、今後はお客様・関係会社様といった関連するすべての企業様に対してご提案・問題解決できる活動へと発展させていきたいと考えています。

情報セキュリティ方針

当社は『人とみどりソリューション』を経営コンセプトにITソリューション会社として情報・通信機器の販売からシステム開発、保守、使用済み機器の引取り、廃棄（循環型ITプロバイダー）までのサービスを提供しております。

今日において、情報は大切な資源であり、機密性、完全性及び可用性を確保しサービス全般を円滑に実施していくことが重要になっております。

当社は情報資産を故意、過失、事故及び災害の脅威から保護し、事業活動を継続的かつ安定的に確保するために、定期的なリスクマネジメントによる情報セキュリティ対策を推進し、適切なセキュリティ水準を維持していきます。

情報セキュリティの重要性を認知し、すべての関係者に啓発を行い『情報セキュリティ方針』や関連する法令を遵守することによりサービスの向上を図ります。



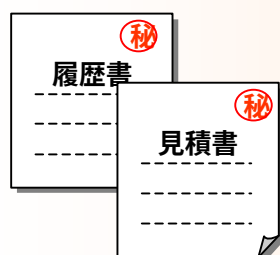
認証サイトにボックスを追加

中古パソコンの販売およびWebでの新ビジネスを展開するボックスにおいて情報セキュリティマネジメントシステムの評価制度であるISO27001/ISMSを取得しました。



機密文書リサイクルサービスの利用

不要になった機密文書を専用ボックスへ入れるだけで未開封のまま溶解処理工場へ輸送し、溶解処理を行います。焼却処理でないためCO₂の排出もなく、処理された資源はトイレットペーパーや段ボールにリサイクルされるため「セキュリティ」と「環境リサイクル」を実現しています。



機密文書



専用ボックス



箱ごと溶解



お客様に提供する商品の一つひとつが環境に配慮をしたものであるべきという思いから、当社が開発する商品には環境対策を取り込むようにしました。また供給する商品には、消費電力の表示を行っています。

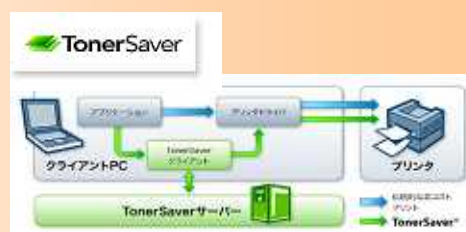
1. TIG【Time is Green】（サーバ電源制御ツール）

TIGは、注目の開発言語「Ruby」で作られたサーバ電源制御ツールです。各サーバの電源オン／オフのスケジュールを登録する事で、自動的にサーバの電源をコントロールし、無駄なエネルギー消費を防ぎます。ブラウザから集中して設定を行うだけで、複数のサーバに対し、簡単に設定が可能です。当社で運用の結果、消し忘れを防ぐ事で、電気使用量40%減の削減効果がありました。



2. TonerSaver（トナー消費削減ソフトウェア）

トナーセーバは、革新的なソフトウェア処理によって、レーザプリンタのトナー使用量を最適化し、トナーカートリッジの寿命を延ばします。ソフトウェアをインストールするだけで、モノクロ／カラーに関わらず、トナー使用量を最大で50%削減します。コスト削減にもつながります。



3. WebSupport119（携帯伝言メール代行サービス）

社員への連絡や行先を管理するシステム。パソコンから携帯へのメールにより迅速確実に伝言を伝達します。社員ごとの行先表示機能も備えています。特に外出先での携帯電話利用による照会や書き込み機能が優れています。また、社外からの携帯やパソコンによるアポイント受け付け機能を追加しました。連絡メモ帳やホワイトボード・マーカーなどが不要になり、紙を含めた各種資源の消費を節約することができます。



4. 廃棄処分管理システム

リサイクルセンターにおける、見積、契約、入荷、マニフェスト、請求の一連の流れを管理するシステム。見積書をはじめとした各種伝票や帳票はEXCEL形式で作成・保存されるため、事前に内容を確認したり内容を修正してレビューで確認したりとペーパーレスを実現しています。



その他・・・

常勝集団 for Web（営業支援システム）	商談プロセス管理（営業日報、商談履歴）
常勝企業 for Web（ERPシステム）	販売、会計管理
勤怠管理システム for Web	就業管理
iTdock119	IT資産管理サービス

環境方針

Environmental Policy



当社の経営コンセプトである『人とみどりとソリューション』に基づいて、1998年10月に環境方針を定めました。この方針に沿って環境保全型企業として活動します。

エコ電子工業・パクスは、お客様にとって身近な地域ソリューション会社という立場で情報通信機器分野を中心とした、環境保全活動に取り組み、社会の発展と地球環境の調和に貢献していきます
そのために環境マネジメントシステムの定期的な見直しを行い、継続的な改善と汚染予防に努めます

会社の使命として、お客様へ環境に配慮したサービス・サポートを提供するとともに、業務の効率化、事務の合理化、リサイクルの推進などにより省資源・省エネルギーを目指します

環境関連の法律や各種規制および、その他の要求事項を守り、環境保全活動に努めるとともに行政機関や地域環境団体の環境活動に対しても積極的に協力します

教育・啓発により、社員一人ひとりが自ら社会に貢献できるように環境意識を高めます

環境方針や活動状況を公開します

環境マネジメントシステム

Environmental Management



国際規格（ISO14001）に基づき、当社に適応した環境マニュアルや具体的な手順書を作成し『みどりの委員会』を中核とした環境マネジメントシステムを構築しました。

環境方針

紙、電気の使用量削減
省エネ商品の販売
省エネ啓蒙商品の開発
森林保護活動を通じた社会貢献

計画

裏紙使用量の削減
電気使用量の削減
中古パソコン販売台数の累計
資源リサイクル量の累計

経営層による見直し

みどりの委員会

継続的な改善

点検および是正措置

毎月のチェックと対策
内部監査および指導
全体会議での実績報告（年2回）
環境報告書作成（6月）

実施および運用

日々の省エネ活動
ボランティア活動参加
社員教育、グリーン商品の開発
システム導入による効果測定
リサイクル/リユースの推進



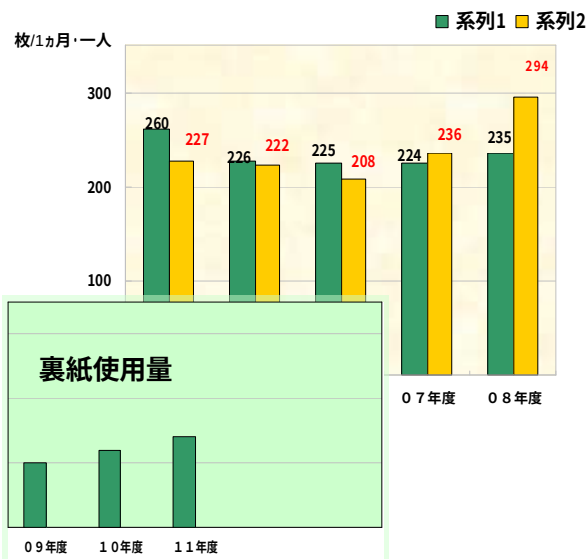
1998年に定めた環境方針をもとに、当社における企業活動の中で、もっとも影響が大きい環境側面（紙の使用量、電気の使用量、システム導入によるCO₂排出量削減効果、パクスの中古パソコン販売台数）を洗い出し、具体的な目標を設定しています。

また、目標に対して環境マネジメントシステムが有効に作用しているかどうかの見直しも定期的に行っています。

1. 紙の購入量削減（実績 ▲25%）

具体策 2up印刷推進、裏紙1cm運動（カラー印字可）、資料の電子データ化、FAX受信の電子化、機密文書リサイクルサービスの導入

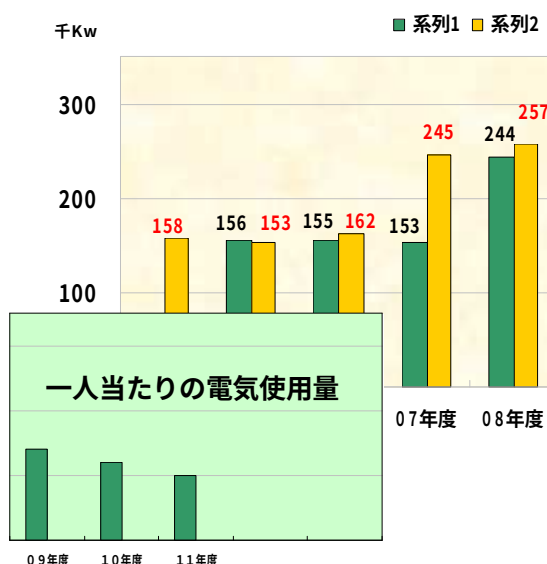
考察 08年度は全社の紙の購入量（535千枚）が07年度比約47%（170千枚）の増加となりました。一人当たりの購入量目標値に対しても25%増と目標に遠く及びませんでした。特に佐世保本店が、大型案件受注による提出書類の増加のため80千枚の増加となりました。
09年度は新たな活動として裏紙使用量の集計を行います。紙の有効利用に観点をおき無駄紙使用の削減に努めます。



2. 電気の使用量削減（実績▲10%）

具体策 不要照明具の消灯、機器の電源オフ、エアコンの温度設定厳守、ダクト調整による空調利用制限、クールビズ、ウォームビズの実施、サーキュレーター（空気循環機）の導入による空調効果改善、サーバ電源制御ツールの開発・運用

考察 08年度の実績は目標値を10%超える結果となりました。主な要因として、サーバ台数の増加、サーバールームにおけるエアコンの常時利用による電力量増加が挙げられます。一方、1月にサーバの電源管理システム導入による夜間電源停止を実施し大幅な電気使用量の削減に成功しました。
09年度は一人当たりの電気使用量を求めます。社員数の増加による電気使用量の増加を考慮するため、相対的な使用量を求めます。



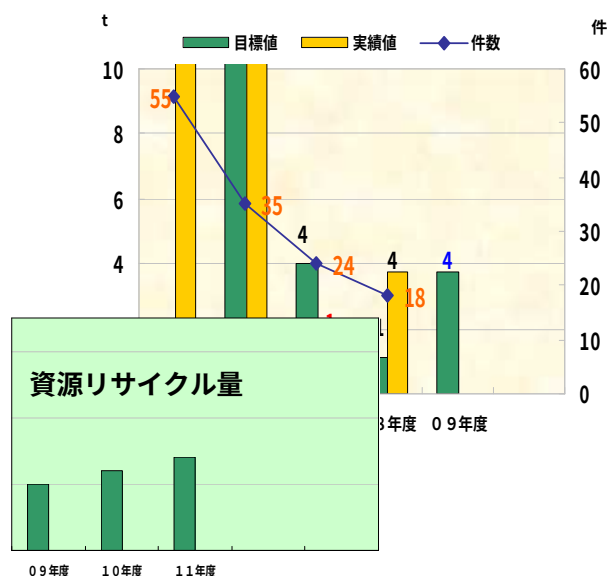
3. システム導入によるCO2排出量削減効果（実績 336%）

説明 当社の中核的業務であるソリューションシステムをお客様へお届けすることで、環境に対してプラスの効果を「CO2排出量の削減量」という形で算出しています。対象はソフト受託額30万円以上の案件です。

具体策 お客様の電気の使用量削減：PC能力向上やソフト改良による時間の短縮
お客様の紙の使用量削減：帳票関連のプレビュー化によるペーパーレス

実績 3.73t-CO2/年（対象案件数18件）

考察 CO2削減量は3.73t-CO2と前年（1.11t-CO2）の336%、件数は18件で06年度（24件）の7.5割となりました。実績集計対象外の派遣や請負の商談の割合は依然高い結果となりましたが、パソコンのレベルアップ案件を多く受注したことによる電気使用量の削減を目標よりも大幅に達成する結果となりました。09年度は新たにリサイクルセンターで分別した「資源リサイクル量」の集計を行います。



4. パक्सの中古パソコン販売台数

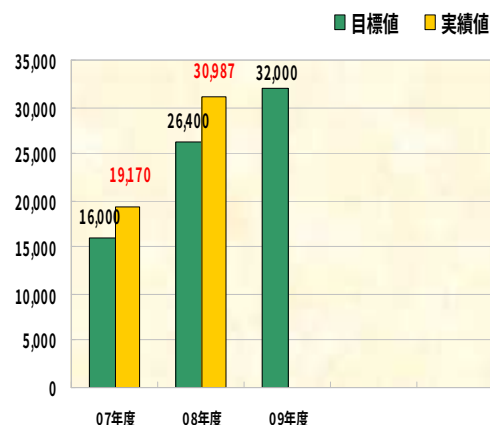
説明 中古パソコンを購入することによって、その分新しいパソコンが売れなかった事になりますが、見方を変えると新たにパソコンを作らずに済み、製造にかかる資源を使わずに済む事になります。つまり、中古パソコンの販売台数を増加させる事が環境負荷の軽減になると考え、再生・再利用の促進に取り組んでいます。

目標 09年度目標：32,000台

具体策 ネットオークションへの出品、自社ホームページで及び中古PC販売業者への販売

実績 30,987台（約2,600台/月）
CO2削減効果：3,172t（富士通の換算式を参考にしています）

考察 本プログラムは07年度からの取り組みですが、08年度は、前年比で伸長率は160%。08年度の販売台数の内訳はデスクトップパソコンが9,170台、ノートパソコンが21,817台となりノートパソコンが約7割を占めています。パソコンの販売はネット販売と業者販売が中心ですが、業者販売が9割を占めています。今後は品揃えとホームページを充実させ、ネット販売での売上拡大を目指します。



※7ページにパックスの関連記事を掲載しています。

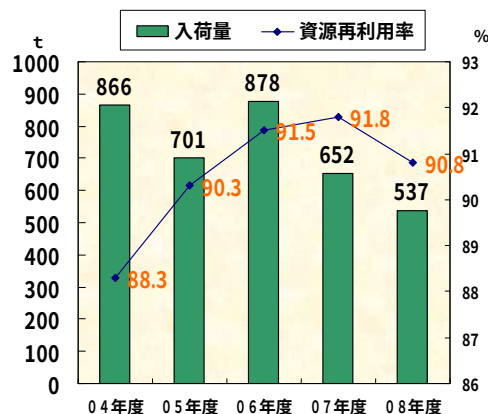


ITサービス形態の中、機器の販売・メンテナンスからリサイクルまで、限られた資源の有効利用と資源循環を基調とする経済システムの実現を目指しています。当社は、「富士通九州リサイクルセンター」にてリサイクル処理を担当しています。富士通が掲げるリサイクル規約「FRS」を遵守し、安心と安全をご提供すると共に、資源の再利用率93%を目指し環境貢献に努めています。入庫から解体・分別・産廃まで一貫して管理できるシステムを導入して、作業実績を把握できます。

1. 入庫量と資源再利用率

右表は、パソコンの入庫量と資源再利用率を示したものです。入庫量は情報通信機器類の軽量化の影響で、減少傾向にあります。また近年は、再使用（リユース）のニーズも高まり、中古市場が活性化しているため、リサイクルの周期が長期化する傾向にあります。そのため、07年度以降の入荷量は減少するという結果となっています。今後は、リユース部門であるパクスとの連携を強化し、入荷量拡大に努めていきます。さらに環境負荷を低減させる活動を各企業に認識していただき、新たに継続受託できる企業の取り込みを実施します。

資源再利用率はバッテリーやプリント基板抽出割合など再利用率が低いものを抽出したため低下しました。今後分解・分別技術の向上より、究極的なゼロエミッションに近づける努力をします。

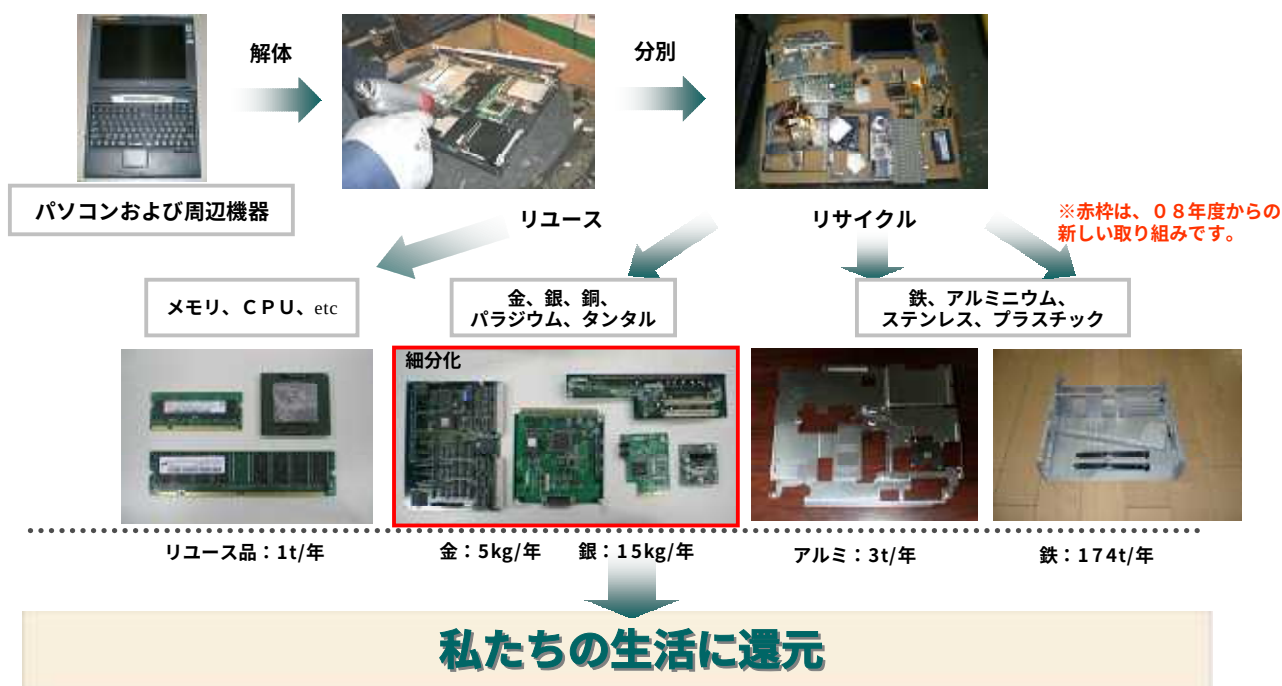


※富士通が公表しているIT関連機器の数値です。今後も資源再利用率90%の維持を目標にされていますが、富士通のリサイクル部門の一員として協力していきます。

※FRS：富士通リサイクルシステムの略

2. 資源再利用

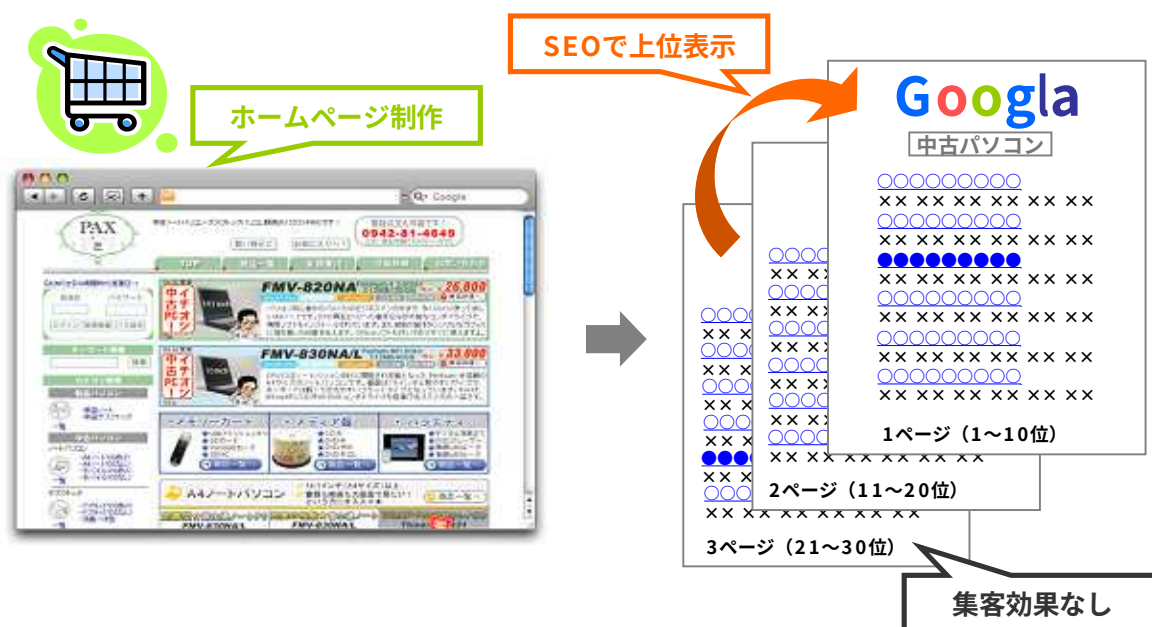
回収した機器を手分解、素材ごとに分別することにより再資源化し、資源の再利用を推進しています。素材の中には鉄、銅、アルミニウム等の金属も多く、その他に金、銀といった貴金属もあります。特に、貴金属は鉱山から採取するよりはるかに効率の良いものと注目されています。更に富士通主導のもと「レアメタル」の抽出にも取り組みます。



3. パクスによる中古パソコンのリユース

パクスは当社の子会社として、情報機器のリユースを目的に設立されました。使用済みパソコンを回収し、整備を行った後に再販を行います。こうしたリユース事業を通して、環境貢献の役割を担っています。

主な作業の流れは使用済みパソコンの回収後に、データ消去、動作確認、クリーニング作業などを行い、品質の高い中古パソコンを生産しています。販売はネット販売と業者販売の二つの販売方法があります。特に、ネット販売については商品の充実化やアクセス件数の向上を図るためにSEO対策の強化を行っています。また、このSEO対策のノウハウを活かしたホームページ作成ビジネス「H o B b (HomePage Building bujiness)」を立ち上げました。H o B b (ホブ) では、ホームページの制作やリニューアル、検索順位のアップなどのサービスを提供します。「会社概要や商品を紹介だけのホームページではもったいない」「リアルに注文も受け付けたい」というお客様に喜んで頂けるサービスです。



4. グリーン電力の利用 (リサイクルセンター)

「バイオマス (biomass)」とは「バイオ (bio=生物、生物資源)」と「マス (mass=量)」からなる言葉で、「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」という意味です。

リサイクルセンターのバイオマス電力は、北海道にある農場から5000 kWhの電力を購入しています。北海道の農場の牛舎から出た糞尿は、バイオマスプラントで発酵させ、メタンガスを主成分とするバイオガスが発生します。そのバイオガスは農場内にあるガスエンジン発電機に送られて発電機の動力となり、電気を作り出しています。



町村牧場 (北海道)

※グリーン電力利用でCO2削減量は、2,583kgとなります。

(平成19年度環境省の電気事業者別二酸化炭素排出係数より算出。)



社員一人ひとりが環境意識を高めて、環境活動のレベルアップを図れるように、全社員を対象にさまざまな環境教育と啓蒙活動を定期的の実施しています。

1. 霧立越トレッキング(宮崎県五ヶ瀬) 08年5月25～26日

社員への環境教育の一環として、毎年新入社員を対象としたトレッキング研修を実施しています。昨年も恵まれた晴天の中、新入・中途社員13名、引率社員2名、計15名で宮崎県五ヶ瀬町霧立越トレッキングコース(標高約1,600m 全長約12km)を汗だくで縦走し、大自然に直接触れあい、環境保全の大切さを学んで帰ってきました。



2. 社内向け環境活動報告会 08年10月4日、09年4月4日

環境活動で掲げている数値目標に対しての成果は、各事業所毎にデータを示して報告しています。在籍数の増減で左右される場合が多いのですが、新しいアイデアを出し合って、継続的に努力しています。

また、個人活動テーマによる社員表彰制度もあり、会社目標と個人目標の相乗効果によるCO2低減を推進しています。



3. トップメッセージによるイノベーション醸成

新入社員研修、決算説明会などの社内イベントだけに留まらず、当社お客様向けエコフォーラムなどの社外イベントにおいても、当社の環境活動に取り組む姿勢をトップからアピールします。

各事務所で行う毎週月曜日の朝礼にて、社員全員で「人とみどりソリューション」に基づく環境方針を唱和しています。



4. 環境コミュニケーションを通じた人格育成

地域ボランティア活動における外的活動一辺倒ではなく、内面からの倫理的な責任感と豊かな人間性を育むため、社内美化活動が始まりました。紙の分別廃棄、ペットボトルのキャップ分別などを全員一丸となって取り組んでいます。社内外を通じた環境コミュニケーションの充実で能動的に社会貢献へ取り組んでいきます。





当社では環境教育および社会貢献活動の一環として、地域に密着したボランティア活動やイベントなどへ積極的に参加し、企業の社会に対する責任を果たしていきます。

当社は、森林造成整備、海岸清掃および植樹などの環境保全活動を、定期的かつ継続的に実施し、社員一人ひとりの環境意識を高め、社会貢献に寄与しています。

1. 枝打ち・間伐

水源かん養機能・県土保全・CO₂九州等、森林の持つ機能を高めるために、森林ボランティアとして、枝打ちや間伐に取り込んでいます。

08年10月11日 福岡市早良区 曲淵ダム 参加31名
08年10月25日 福岡県田川郡添田町 英彦山周辺 参加16名



2. 海岸清掃

海の生態系保持のため、毎年海岸清掃に参加しています。福岡海水浴場の漂着物やゴミを拾い、いつまでもウミガメが産卵に訪れる砂浜、子供たちが安心して遊べる海水浴場を守ります。

08年10月18日 福岡県福津市 福岡海水浴場 参加11名



3. 植樹・下草刈り

当社の拠点がある九州北部を中心とした植樹ボランティアに参加しています。植樹は、森林を蘇らせ、温室効果ガスの吸引源とするだけでなく、河川や海への水質汚染を防止するために必要な活動です。

恒例のリサイクルセンターでの植樹では、今年は、ヤマモモの苗木10本（雄9本／雌1本）の植樹を行い、植樹の累計は、桜8本、ヤマモモ20本となりました。

08年 7月27日 長崎県佐世保市 烏帽子岳 参加6名
08年11月 9日 佐賀県嬉野市嬉野町 嬉野県有林 参加6名
08年11月29日 佐賀県鳥栖市 リサイクルセンター周辺 参加41名
09年 3月 8日 佐賀県鳥栖市 河内ダム湖畔 参加5名
09年 3月29日 長崎県佐世保市名切町 中央公園北広場 参加4名



4. 植栽・下刈り

佐世保市の「100年の森づくり」に参加し、どんぐりから苗木を育て、山に植樹することで、自然の大切さ、命の尊さを学んでいます。また、森林整備や下刈りの体験を通じて、森林と緑の重要性を学んでいます。

08年10月19日 雲仙市国見町 県立百花台公園 参加4名





当社では環境保全に関わる費用と効果を定量的に把握し、環境投資と効果を評価する『環境会計』を導入しています。費用と効果を比較しやすくする為に、出来る限り貨幣換算しました。また効果については、間接効果（当社の環境活動による社会への貢献を貨幣換算したもの）も考慮し算出しています。

1. 費用 (注1)

事務所

(単位：千円)

環境保全費用の分類	主な取り組み	投資額・費用額
①営業・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全費用 (事業所エリア内費用)	・省エネ等の環境対策関連設備投資・償却費 ・環境保全維持管理費用	4,215
②管理活動における環境保全費用 (管理活動費用)	・環境負荷の監視・測定 ・環境マネジメントシステム構築、運用、認証取得 ・環境教育	7,254
③社会活動における環境保全費用 (社会活動費用)	・森林保護活動 ・環境情報の公表及び環境報告 ・環境保全を行う団体へ寄付、支援効果の内容 ・バイオマス電力購入	1,521
合 計		12,990

リサイクルセンター・パクス

(単位：千円)

環境保全費用の分類	主な取り組み	投資額・費用額
①営業・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全費用 (事業所エリア内費用)	・廃棄物のリサイクル、減量化の為に設備投資維持管理費用 (設備費)	15,789
	・廃棄物のリサイクル、減量化の為に設備投資維持管理費用 (人件費)	95,997
	・廃棄物のリサイクル、減量化の為に設備投資維持管理費用 (その他 維持費)	37,457
合 計		149,242

2. 効果 (注2)

事務所

(単位：千円)

効果の分類	効果の内容	主な取り組み	効果額
①事業エリア内で生じる環境保全効果 (事業所エリア内効果) (注3)	・地球環境の保全	・紙の使用量削減 ・電気の使用量削減 ・業務車両の燃費向上 ・グリーン商品の販売 ・個人活動テーマの実践 (注4)	▲841
②社会活動における環境保全効果 (社会活動効果)	・企業イメージの向上 ・環境保全への啓蒙活動	・森林保護活動 ・環境情報の公表及び環境広告 ・環境保全を行う団体への寄付、支援 ・バイオマス電力利用	11,405
合 計			10,563

リサイクルセンター・パクス

(単位：千円)

効果の分類	効果の内容	主な取り組み	効果額
①事業エリア内で生じる環境保全効果 (事業所エリア内効果)	・資源循環	・廃棄物の分別によるリサイクル率向上 (処理受託費)	53,562
		・廃棄物の分別によるリサイクル率向上 (素材販売額)	43,424
		・中古パソコン販売による資源の再利用	375,151
		・パソコン再利用による新規製造エネルギーの抑制 (注5)	2,221
合 計			474,358

3. 収支・CO2低減量

(単位：千円)

収 支 (事務所)	▲2,427
-----------	--------

(単位：千円)

収 支 (リサイクルセンター)	325,116
-----------------	---------

(単位：千円)

収 支 (全 体)	322,689
-----------	---------

(単位：kg)

CO2低減量 (注6)	694,017
-------------	---------

CO2低減量694,017kgは、約49,500本のスギが1年間に吸収する二酸化炭素量に該当します。また、この二酸化炭素量は、福岡ドーム527杯分の大気中に含まれる二酸化炭素量に相当します。(注7)

4. 考察

環境会計で費用とは、環境を良くするために費やした経費・投資額のこと、グリーン商品の開発費や環境活動を管理・維持・推進するために要した経費・人件費などを指しています。効果とは、紙や電気を削減したり、ボランティアで間伐・植樹したりといった環境保護活動を通じてCO₂排出の削減につながる行為に関わる費用を指しています。一方、リサイクルセンター・パクスでは業務全般が環境貢献につながることから、効果については一部売上を含む内容となっています。

事務所においては12,990千円の費用に対して10,563千円の効果が得られました。収支は2,427千円の赤字となっています。昨年と比べて赤字幅が大きくなっており、行動計画の実績がどれも前年割れとなっていることが伸び悩んだ大きな要因です。一方、企業経営のなかで環境貢献の柱となっているリサイクルセンター・パクスにおいては、474,358千円の黒字となりました。これは業務に直結した環境活動が着実に成長していることを示しています。事業所内の削減活動と数字を比較しても影響度は大きく、今後も業務を通じて環境貢献をさらに拡大してまいります。

(注1：費用 環境保護のために積極的に投資したもの

実質支出額および人件費（活動時間×人件費単価）にて算出

(注2：効果 ISO管理指数を用いた前年比削減率をもとに回避原価方式によるシミュレーションで算出

(注3：事業所エリア内で生じる環境保全効果

環境活動によって得られた社内効果と、社会に貢献した社外効果を考慮し貨幣換算したものです。例えば、昼休みの消灯による活動によって電氣量が削減され、CO₂排出が削減されるという間接効果が発生すると考え、その電氣量を貨幣換算しています。

(注4：個人活動テーマの実践

04年度より企業としての活動に加え、個人ごとにテーマを設定して社員一人ひとりが環境に対する意識を高めています。これらの活動も集計した結果16,535kgのCO₂排出削減となり、比率としては微々たるものですが環境会計の効果にも盛り込んでいます。

個人活動テーマ（例）	実績状況	CO ₂ 削減量
社内での紙への印刷物を削減 両面印刷を行った枚数をカウントする	4～ 6月 700枚 7～ 9月 400枚 10～12月 230枚 1～ 3月 205枚	3,070kg
マイ箸の持参。割り箸を使わない。 手帳に、マイ箸を使った日にチェックを入れる	4～ 6月 4回 7～ 9月 31回 10～12月 30回 1～ 3月 27回	184kg
買物の際にはマイバックを持参し、 ビニール袋をもらわない	4～ 9月 71回 10～ 3月 76回	2.11kg

(注5：パソコン再利用による新規製造エネルギーの抑制

次の係数に中古パソコンの販売台数を掛けて算出しました。

■ノートパソコン：87kg-CO₂/台

■デスクトップパソコン：139kg-CO₂/台

(注6：CO₂低減量

当社の環境保全活動によるCO₂低減量を次のシミュレーションで算出しました。

■CO₂低減量＝効果額（左表2．効果の合計額）÷CO₂被害コスト

※CO₂被害コスト：CO₂大気汚染物質の排出が1t増えた場合の環境的な被害を推計し貨幣換算したもの（700円/t）

参考資料：『環境省環境会計ガイドライン2005年度版』

<http://www.env.go.jp/policy/kaikei/guide2005.html>

(注7：CO₂吸収量

CO₂吸収量は、林野庁ホームページ記載の係数を元に算出しました。

福岡ドームの容積を176万m³、CO₂濃度は381ppmとして算出しました。

※林野庁：<http://www.rinya.maff.go.jp/kids/study/function/kyuusyuu.htm>

※気象庁：<http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/ghghp/21co2.htm>



組織的に環境活動へ取り組んできた主な活動内容をご紹介します。

'97

リサイクルセンター開設（鳥栖市）

'98

ISO認証取得に向け『みどりの委員会』発足
環境マニュアルを新規制定

'99

ISO14001認証取得
水源の森保全活動（福岡）・さくら植樹式の開始（鳥栖）

'00

『グリーンセーバー』提供開始
環境省・長崎県主催『地球温暖化防止シンポジウム』パネルディスカッションへ参加

'01

佐世保市主催『エコライフフェア』へ出展
福岡県主催『森林と水のシンポジウム』パネルディスカッションへ参加

'02

環境報告書創刊
九州北部三県森林ボランティアへ参加開始

'03

環境省主催『こどもエコクラブ全国フェスティバル』へ出展
個人別活動テーマに環境目標値を追加
させば環境ISOネットワークへ参画・福岡市ごみ減量優良事業者へ登録

'04

福岡市よりごみ減量優良事業者として奨励賞受賞
地球温暖化防止福岡市民大会にて活動発表
福岡共同古紙回収事業へ参画・佐世保市森林組合ボランティアへ参加

'05

福岡県水源の森基金より感謝状授与
福岡県中小企業家同友会より環境報告書大賞受賞
中小企業同友会 全国大会(名古屋)で環境活動を事例発表

'06

社員の環境個人活動テーマの実践における社員表彰制度を導入
リサイクル部門からリユースを分離して（株）パクスを設立

'07

佐世保100年の森づくり活動に参画
リサイクルセンター開設10周年・記念植樹祭でヤマモモを植樹（鳥栖市）
ビジネス書籍「中小企業の社会的責任経営」の事例紹介に当社掲載

'08

TonerSaver（トナー消費削減ソフトウェア）を社内を導入
低燃費・低排出ガス認定車（ガソリン車）を3台導入
福岡県エコ事業所に登録（登録番号第820号）
みどりの委員会ブログを開設
ISO14001 10年継続賞受賞（日本環境認証機構より）

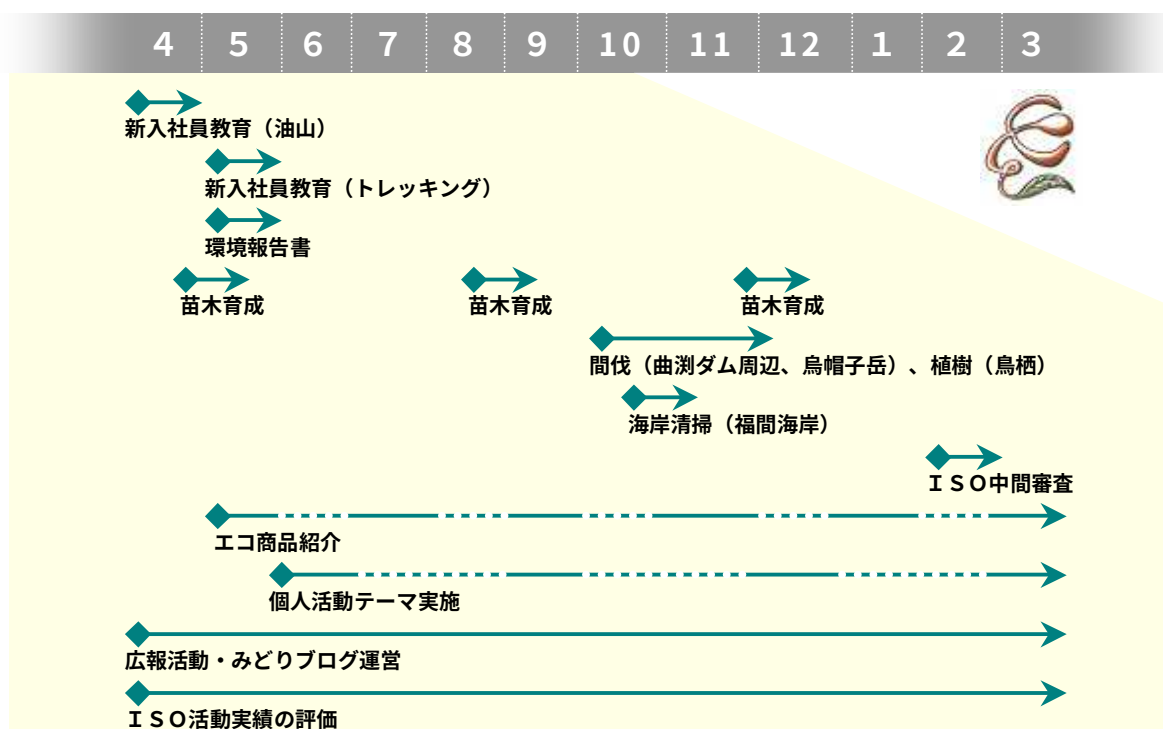


活動スケジュール

Schedule of Activity



CO₂排出量削減をさらに推進するために、能動的な苗木育成や森林育成活動に取り組んでまいります。また、引き続き企業目標とは別に、社員一人一人の個人活動テーマを設定します。環境ボランティアや環境イベント等への継続参加を行います。



第三者コメント

Comment



第三者という独立したお立場より、本報告書についてご意見をいただきました。当社は、こうした客観的評価を真摯に受けとめ、今後の活動に活かしていきます。



前 佐世保市交通事業管理者
交通局長 萬屋 良三 様

故郷に帰る度に感じることは、近代化のもとに、経済効率性に合わない田畑の耕作・山林作業が無くなり、変わり果て荒廃し、イノシシの天下となっている自然を目にすることです。一方では区画整理された立派な田んぼ、用水路は三面コンクリート張り、河川は自然災害防止を目的に護岸工事が行われ、河川にすんでいた鮎、エビ、カニ、ウナギなど河川生物の住環境が大きく破壊されていることを実感させられている今日この頃です。この環境報告書にみる貴社の取組みは、私達の先祖が自然の恵みを受け、共生してきた長い歴史の中で、代々受け継いできた「ものを大切に使う」という思想が流れていることに共鳴を覚えます。再利用は私達日本人の自然に対する考えの一つで、廃棄物の処分・処理は生かせば「資源」となることを示しています。

小林社長様をはじめ、従業員の皆様が「みどりの委員会」を中核とした経営活動方針のもと人材・コストを投入し、環境経営に対する強い姿勢で「青い地球を守る」ため、継続して取組まれている地道な活動が大きな波動となることを期待しているところです。



みどりの委員会はISO14001取得に向けて組織的な推進を行うために1998年に発足しました。福岡、佐世保、長崎、鳥栖の各サイト（事業所）から代表者が毎月1回集まり、社長、環境管理責任者が加わって11名で構成しています。「人とみどりとソリューション」をコンセプトにISO14001の対応だけでなく、全社的な幅広い環境活動の中心的存在として社員の啓蒙活動、対外的なアピール活動、目的・目標の管理などを行っています。

月1回（第3木曜日）みどりの委員会メンバーが集まって、実績のレビューを行い、目標未達成の場合は即座に原因の分析を行い、対策を実施します。また、外部講師による勉強会や新たな環境活動についてアイデアを出し合ったり活発な意見交換をしています。森林ボランティアとしてのイベント等は、ご家族も一緒に全社員が気軽に参加できるように企画・運営しています。若いメンバーで構成していますが、各サイトの代表として参加しており、それぞれの職場に戻れば環境活動の推進責任者として重要な役割を担っています。



委員長メッセージ

近年の「環境問題」に対する意識の高まりをうけ、当社も環境変化に合わせたみどり活動を行っていましたが、1999年にISO14001認証を取得して以来、環境マニュアルも当時のままだったため、日々のみどり活動と環境マニュアルの内容に乖離する部分が出てきました。そこで『みどり活動とISO14001の一体化』と『新プログラムの徹底』を今年の目標に掲げ、社員が無理なく積極的にみどり活動を行える環境作りを行います。
（委員長 右田）

責任者メッセージ

私の役目は環境マネジメントですが、我が社はどちらかと言えばマニュアルに則った活動というより、環境負荷軽減を模索しながらいろんなことにトライする会社です。これは、我が社のコンセプトである「人とみどりとソリューション」を社員一人ひとりが十分に理解した表れだと思います。これからも推進部隊である「みどりの委員会」と連携をとりながら認証維持を行っていきます。
（環境管理責任者 松元）

【2009年度活動方針】

《みどり活動とISO14001の一体化》

■環境管理責任者、内部環境監査員との連携

■環境マニュアルの整備

《新プログラムの徹底》

■紙や電気、資源リサイクルの新プログラムの開始

■PDCAの徹底

【みどりの委員会メンバー】



右田(本社)
委員長

田維(本店)
電気管理担当

大家(本店)
環境推進担当

山本(本社)
紙管理担当

甲斐(本社)
電気管理担当

佐藤(リサイクルセンター)
RC新規顧客担当

白木(バクス)
中古PC担当

草野(本社)
環境推進担当

荒巻(長崎)
環境推進担当

黒河(本社)
ｼｽﾃﾑCO2担当

松元(本社)
環境管理責任者



リサイクル	廃棄物として排出された製品・部品等は、解体分離して資源として再生し、再び原材料として利用する。
リデュース	事業者は様々な製品・部品・建築物・工作物等について、できる限り長期間使用できるように設計・技術の創意工夫や原材料の選択等を行うとともに、故障・破損・老朽等に対しては、修理・修繕等によって長期間使用する。
リユース	一度使用されて不要となった製品や部品であっても、再度、リサイクルショップ、フリーマーケット等を通じて回収・販売され、繰り返し使用する。
SEO対策	SEOとはSearch Engine Optimizationの略で検索エンジンの最適化を意味する。GoogleやYahoo!などの検索エンジンの結果の上位にウェブサイト・ページが掲載されるように工夫をすること。
ASP	ASPとはApplication Service Providerの略でビジネス用のアプリケーションソフトをインターネットを通じて顧客にレンタルする事業者のこと。
ゼロ・エミッション	ゼロ・エミッションは、産業活動から排出される廃棄物などすべてを、ほかの産業の資源として活用し、全体として廃棄物を出さない生産のあり方を目指す構想、考え方。
循環型社会	将来の世代においても環境の恵みを引き継いで受けられるよう、モノを大切に使い、不要になっても再利用に回したり、リサイクルできるモノはそのルートに乗せたりして、少しでもごみを出さず、限りある資源を大切にしていける社会。
森林破壊	人間による森林とそこにある生態系の大規模な破壊のこと。開墾や建設、あるいは商用木材の乱伐などの結果で地肌が風さらされ、土地が不毛になったり、山が雨で崩れやすくなるなどの弊害がある。
温室効果ガス	地球温暖化の原因となる気体の総称。太陽により暖められた地表より放射される赤外線を吸収し熱エネルギーとして蓄積して地表付近の大気を暖める「温室効果」作用を有することから、こう呼ばれる。二酸化炭素CO ₂ 、メタンCH ₄ 、一酸化二窒素N ₂ O、代替フロンであるハイドロフルオロカーボンHFC、パーフルオロカーボンPFC、六フッ化硫黄SF ₆ の6種類がある。
間伐	育成段階にある森林において樹木の混み具合に応じて、育成する樹木の一部を伐採（間引き）し、残存木の成長を促進する作業。この作業により生産された丸太が間伐材。一般に、除伐後、主伐までの間に育成目的に応じて間断的に実施する。
枝打ち	森林内の光環境の改善、良好な景観の保持及び優良材の生産等を図るために、樹木の枝を落とす作業。
除伐	育成の対象となる樹木の生育を妨げる他の樹木を刈り払う作業。一般に、下刈を終了してから、植栽木の枝葉が茂り、互いに接し合う状態になるまでの間に数回実施する。
森林環境教育	森林内での多様な体験活動などを通じて人々の生活や環境と森林との関係について学ぶことにより、「地球温暖化防止」など森林の多面的機能や森林の整備と森林資源の循環利用の必要性等に対する理解を醸成するとともに、子どもたちの「生きる力」を育むための取組み。
P D C A サイクル	計画(Plan)－実行(Do)－事後評価(Check)－措置(Act)の継続的な繰り返し。
バイオマス	再生可能な生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたもの。バイオマスは、地球に降り注ぐ太陽のエネルギーを使って、無機物である水と二酸化炭素から、生物が光合成によって生成した有機物であり、ライフサイクルの中で、生命と太陽エネルギーがある限り持続的に再生可能な資源である。
アイドリングストップ	信号待ち、荷物の上げ下ろし、短時間の買い物の駐車時に、自動車のエンジンを停止させること。また、そのような行動を推奨する運動を指す。エネルギー使用の低減、大気汚染物質や温室効果ガスの排出抑制に効果がある。
環境会計	企業が環境保全への取組みを効率的かつ効果的に推進していくために、事業活動における環境保全のコストとその活動により得られた効果を定量的（貨幣単位または物量単位）に測定する仕組み。環境報告書などに表組みとして掲載する。
イノベーション	新しい技術の発明だけではなく、新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす自発的な人・組織・社会の幅広い変革である。つまり、それまでのモノ、仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことを指す。
グリーン調達	商品やサービスを購入する際に、必要性をよく考え、価格や品質だけでなく、環境への影響・負荷ができるだけ小さいものを優先的に調達・購入する。
コーポレートガバナンス	企業統治。会社の不正行為の防止あるいは適正な事業活動の維持・運営を目的とした会社内のシステムや仕組みのこと。具体的には監査役・株主総会等による取締役へのチェックシステムとの関連で議論される。
コンプライアンス	法令遵守。企業活動全般において、法律や社会的な倫理・規範を守って公正・公平に業務遂行する。
ステークホルダー	企業の利害関係者のこと。金銭的な利害関係の発生する顧客や株主だけでなく、企業活動を行う上で関わるすべての人のことを言う。地域住民、官公庁、研究機関、金融機関、そして従業員とその家族も含む。
ダイオキシン	有機塩素化合物の一種であるポリ塩化ジベンゾ-バラ-ジオキシン（PCDD）を略して、一般に「ダイオキシン」と呼ぶ。廃棄物などを低温で燃やすと発生し、毒性、発ガン性などが指摘されている。
リスクマネジメント	企業が目的やビジョンを実現するために、その資産や事業活動に及ぼす危険や不安要素の影響からもっとも効率よく組織・構成員・資産・ブランドなどを守るためのプロセスや仕組みのこと。欧米で発達してきた経営管理手法の一つ。



本 社

〒812-0007 福岡市博多区東比恵3-1-2東比恵ビヅネスセンター9階
Tel:092-471-0848 Fax:092-471-8621

本 店

〒857-0034 佐世保市万徳町4-18
Tel:0956-23-6221 Fax:0956-25-0784

長崎営業所

〒850-0057 長崎市大黒町4-26北村ビル2階
Tel:095-828-2762 Fax:095-828-2756

北九州営業所

〒802-0003 北九州市小倉北区米町2-2-1新小倉ビル3階
Tel:093-511-8164 Fax:093-551-6067

リサイクルセンター

〒841-0087 佐賀県鳥栖市河内町転石2834-16
Tel:0942-81-2361 Fax:0942-81-2362

株式会社パクス

〒841-0076 佐賀県鳥栖市平田町3248-1
Tel:0942-81-4656 Fax:0942-84-9270

発 行 元：エコー電子工業株式会社
発行責任者：みどりの委員会
U R L：http://www.g-hopper.ne.jp